

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成29年2月23日 (2017.2.23)

【公開番号】特開2016-195873(P2016-195873A)
 【公開日】平成28年11月24日 (2016.11.24)
 【年通号数】公開・登録公報2016-065
 【出願番号】特願2016-162937(P2016-162937)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月17日 (2017.1.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

変動表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
 変動表示の態様を選択する変動態様選択手段と、

前記変動態様選択手段により選択された変動表示の態様に従って変動表示を行い、表示
 結果を導出させる変動表示演出を含む演出の実行を制御する演出制御手段とを備え、

前記演出制御手段は、変動表示の態様として再変動態様が選択されたときに、変動表示
 が開始されてから表示結果が導出されるまでに一旦仮停止させた後に再度変動表示させる
 再変動表示を所定回実行する再変動表示実行手段を含み、

複数段階のステップよりなるステップアップ演出を実行するステップアップ演出実行手
 段とを備え、

前記再変動態様には、再変動表示の回数が互いに異なる複数種類の再変動表示態様が含
 まれるとともに、最後に仮停止させた後に実行可能なりーチ変動態様が複数種類含まれて
 おり、

前記変動態様選択手段により選択された再変動態様において再変動表示が第 1 回数行わ
 れるときよりも、第 1 回数よりも多い第 2 回数行われるときの方が前記有利状態に制御さ
 れる割合が高く、

前記変動態様選択手段は、再変動表示の回数に応じて、いずれのリーチ変動態様が実行
 されるかの割合が異なるように前記再変動態様を選択し、

前記ステップアップ演出実行手段は、前記変動態様選択手段により選択された再変動態
 様において実行される再変動表示の回数に応じて、各再変動表示において第 1 段階のステ
 ップから複数段階のうちいずれの段階のステップまで発展させるかの割合が異なるように
 ステップアップ演出を実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

上記目的を達成するため、本発明の第 1 の観点にかかる遊技機は、

変動表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態（大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

変動表示の態様（変動パターン）を選択する変動態様選択手段（CPU 56（図 4））と、

前記変動態様選択手段により選択された変動表示の態様に従って変動表示を行い、表示結果を導出させる変動表示演出を含む演出の実行を制御する演出制御手段（表示制御基板 80 の表示制御用 CPU）とを備え、

前記演出制御手段は、変動表示の態様として再変動態様（疑似連 1 回 / 2 回 / 3 回 / 4 回）が選択されたときに、変動表示が開始されてから表示結果が導出されるまでに一旦仮停止させた後に再度変動表示させる再変動表示を所定回実行する再変動表示実行手段（表示制御基板 80 の表示制御用 CPU）を含み、

複数段階のステップよりなるステップアップ演出（第 1 段階から第 3 段階までのうちの何れかの段階まで演出が段階的に変化するステップアップ演出）を実行するステップアップ演出実行手段とを備え、

前記再変動態様には、再変動表示の回数が互いに異なる複数種類の再変動表示態様（疑似連 1 回 / 2 回 / 3 回 / 4 回）が含まれるとともに、最後に仮停止させた後に実行可能なリーチ変動態様が複数種類（ノーマル、スーパー A、スーパー B）含まれており、

前記変動態様選択手段により選択された再変動態様において再変動表示が第 1 回数行われるとき（疑似連 2 回）よりも、第 1 回数よりも多い第 2 回数行われるとき（疑似連 3 回）の方が前記有利状態に制御される割合が高く、

前記変動態様選択手段は、再変動表示の回数に応じて、いずれのリーチ変動態様が行われるかの割合が異なるように前記再変動態様を選択し（図 4）、

前記ステップアップ演出実行手段は、前記変動態様選択手段により選択された再変動態様において実行される再変動表示の回数（疑似連の回数）に応じて、各再変動表示において第 1 段階のステップから複数段階のうちいずれの段階のステップまで発展させるかの割合（ステップアップ演出 1、ステップアップ演出 2、ステップアップ演出 3 のそれぞれを選択する比率）が異なるようにステップアップ演出を実行可能である

ことを特徴とする。